

図2—130 箕田丸山古墳出土遺物3

明)、鉄矛一口、鉄鏃、銀箔で飾った弓の一部がある。

武器(不明) 弓矢を盛る胡籥の飾り金具が出土している。

その他 鉄製鑿一点、鹿角装を含む刀子四点、直弧文を刻んだ鹿角製刀装具などがある。

以上が現在判明している内容である。この前方部石室からの出土品は六世紀前半〜中ごろの年代を示し、かつ古墳の規模に比して優秀な遺物が含まれていると評価されている。

古墳築造時に造られた後円部石室は前方部石室に比べてやや遡る年代が考えられ、六世紀前半ごろとしてよからう。

(小田富士雄ほか「福岡県京都郡における二古墳の調査—箕田丸山古墳及び庄屋塚古墳」『福岡大学考古学研究室研究調査報告』第三冊、二〇〇四)

五 庄屋塚古墳(町指定史跡)

概要 庄屋塚古墳は下黒田の旧国道沿いに位置する。上黒田から下黒田にかけては低丘陵が南西—北

東にかけてのびるが、ほとんどが宅地化されていて、その中にある小山が庄屋塚古墳である。周辺は宅地が迫り、墳丘もかなり形が改変されている。数年来の懸案であった町による古墳の買い上げが終了したことを受けて、測量調査を実施した。

なお、この古墳はかつて昭和三十九年(一九六四)に小田富士雄らによって前方部石室の調査が実施され、その成果はす

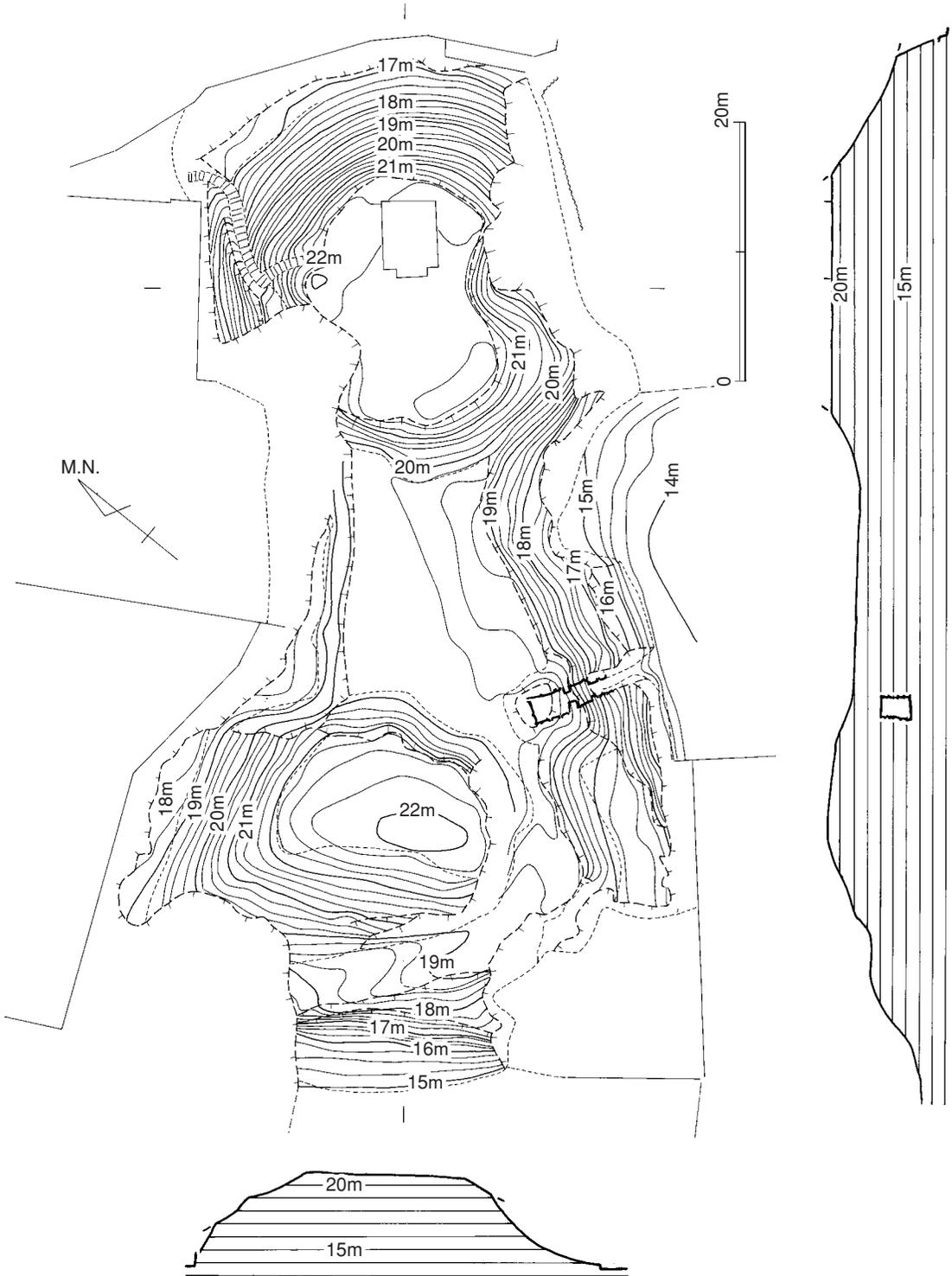


図2—131 庄屋塚古墳墳丘測量図 (1/500)

に公表されている（小田富士雄「横穴式石室古墳における複室構造の形成」『史淵』雄一〇〇輯、一九六八）。ただ、古墳の規模についてはいくつかの数値が出されて確定していなかった。

墳 丘

前方部前端の一部が旧状を残しているようだが、周囲は宅地化していて裾部が大きく削り取られ、後円部北東側にも深い水路が掘削されるなど、本来の規模を推測することは困難である。また、後円部上は平坦化して社殿が置かれ、前方部上も開墾によると思われる広い平坦部が見られる。現状で周溝は確認できない。

後円部北東の水路から前方部端までの長さは八一呎で、本来は八五呎ほどであろうか。そうした場合の後円部直径は約四五呎ほどに復原できる。前方部幅は現状で四五呎を測るが、これも五〇呎を超えるのは間違いない。幅の狭い低丘陵上に高さ七呎を超える墳丘を築くことから、当然大規模な周溝の存在が予想されるが、その有無を含めて詳細は将来の調査を待ちたい。

なお、後円部北側の階段から東の部分、標高一七呎付近にやや平坦なテラスがあり、段築の痕跡を示すものと思われる。前方部北西部でも一八呎付近に、同南西部でも一八〜一九呎付近に同様の平坦部が確認できることから、少なくとも二段築成であったものと思われる。前方部南側のテラスは開墾によるものである。また、石灰岩と思われる白色の石材が多くみられ、葺石が使用されていたようである。

主体部

後円部南東側が大きく崩落するが、ここはかつて防空壕が掘削され、その際に石材を発見したという。ただ、現状では石材は見えず、出土品も含めて詳細は不明である。

一方、くびれ部に近い前方部に小型の横穴式石室が開口し、昭和三十九年に発掘調査が実施された。石室は複室の横穴式石室で、後室は長さ二・四呎、幅一・八呎、高さ二呎の規模をもつ。四壁は丁寧に石積みがなされている。前室は長さ一・二呎、幅一・六呎、高さ一・八呎の規模である。墓道奥の左右にも石が配されて、石室の全長は六・三呎となる。なお、発掘調査時には前室の前面で閉塞石の一部が確認されている。

出土遺物

前室内で須恵器蓋杯一四点などが発見された。須恵器はいずれもほぼ同じ特徴をもち、六世紀中ごろと考えられる。また、埴輪も採集されているが、いずれも細片化する。

今回の測量によって、庄屋塚古墳が八一呎を超える規模であることが確認された。本来の規模等は発掘調査を待つほかないが、豊前北部では苅田町御所山古墳・石塚山古墳に次ぐものであり、六世紀半ばの古墳としては豊前国内のみならず、県下で最大級の規模をもつ。やがて、橘塚・綾塚へと続く、勝山町の歴史上もつと輝いた時代のモノユメントである。

（小田富士雄ほか「福岡県京都郡における二古墳の調査―箕田丸

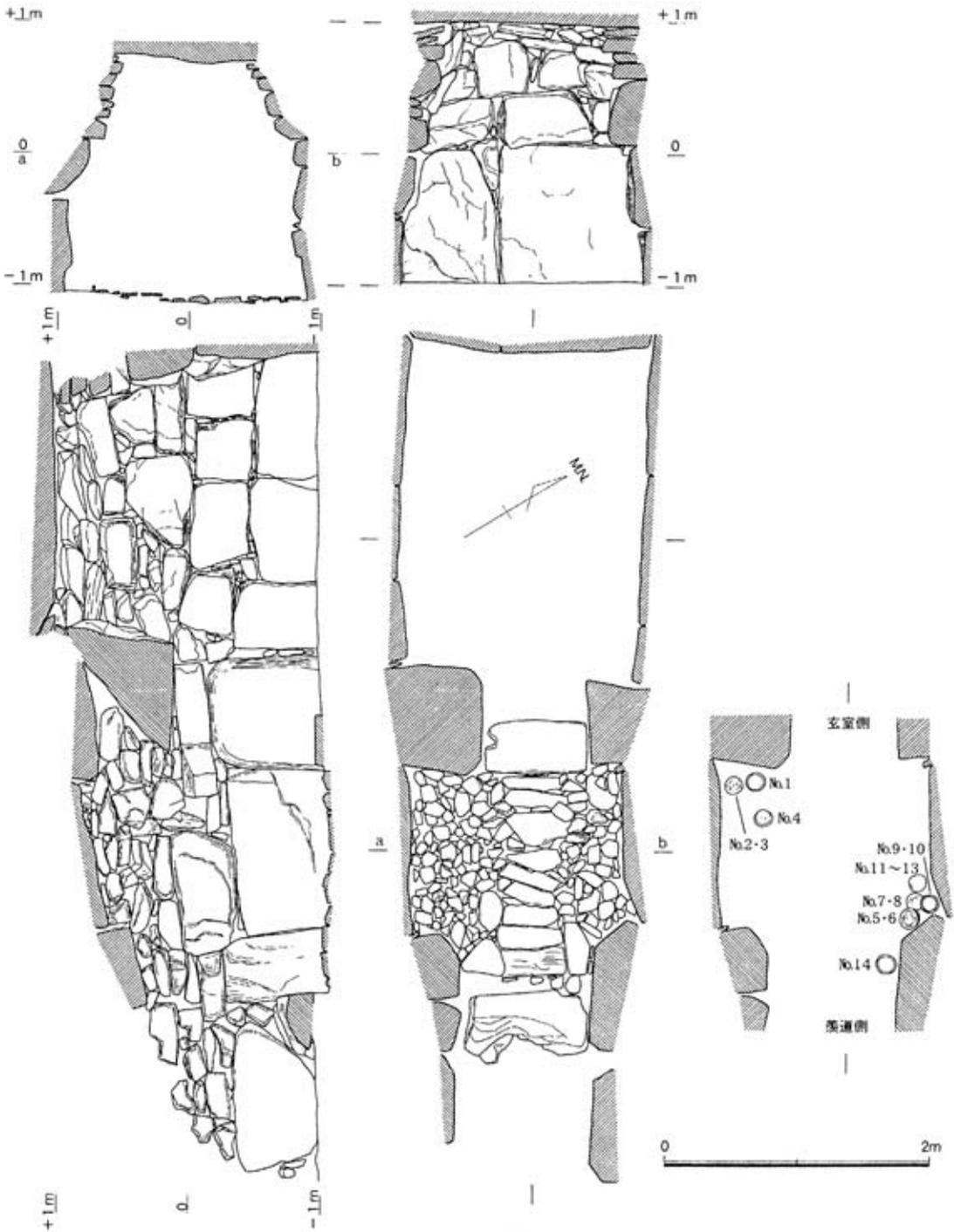


图2—132 庄屋塚古墳前方部主体部実測図 (1/50)

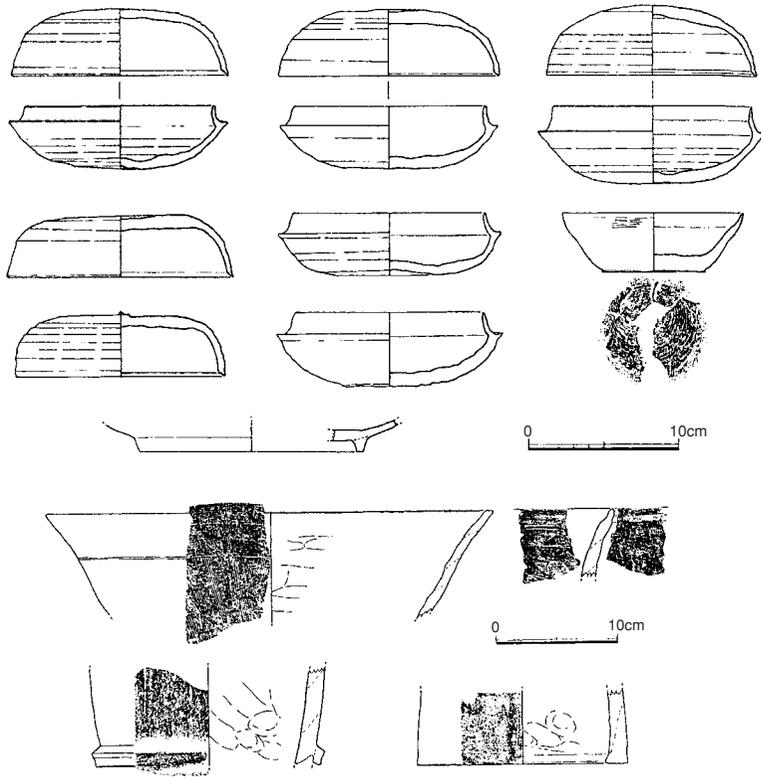


図2—133 庄屋塚古墳出土遺物実測図

山古墳及び庄屋塚古墳」『福岡大学考古学研究室研究調査報告』第三冊、二〇〇四)

六 橘塚古墳 (国指定史跡)

概要

庄屋塚古墳が位置する同一丘陵上、五〇〇メートルほど南西に橘塚古墳はある。町立黒田小学校の敷地となり、古くから児童たちの遊び場となっていた。

古墳の西側には鉄骨三階建ての校舎が近接し、その周囲もかさ上げされて古墳の西裾を覆い、南側は一〇メートルほどの距離をおいてコンクリート造りのプールが設置されている。東側は忠魂碑を中心に公園化され、北側は空地の部分もあるが、北東部付近は町立保育所の敷地となって各種遊具が置かれている。長期にわたってなされたこうした地形改変ではいずれも発掘調査は行われていない。

国指定史跡であるが、公表された資料は昭和十二年(一九三七)作成の石室実測図のみであった。そうした事情から、町教育委員会は町内の主要古墳の資料作成を行うために調査費を計上し、平成七年度(一九九五)にまず橘塚古墳の調査に着手した。折しも、宮崎

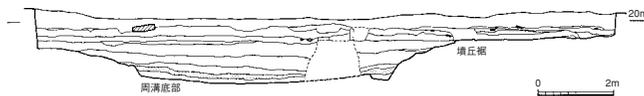


図2—134 橘塚古墳第1トレンチ土層断面図 (1/200)

※網かけ部分は黒色土層